科目名	開講時期	開講学年	必/選	3単位 (135h)
成人看護学実習Ⅱ（～21HN）	通年	3		

担当教員名	電子メール	オフィスアワー
※中村織恵・須田利佳子・荒木玲子・外舘真理子	rie.nakamura@tohto.ac.jp	中村/金曜日 12：35～13：00

授業の概要

本実習は、成人看護学実習Ⅱ-慢性期・終末期患者受け持ち看護実習と成人看護学実習Ⅱ-慢性期・終末期見学実習の２つの実習より構成される。

成人看護学実習Ⅱ-慢性期・終末期患者受け持ち看護実習（2 週間）:治療を必要とする慢性期・終末期にある対象を受け持ち、看護過程を展開し、実践を通して学ぶ。

成人看護学実習Ⅱ-慢性期・終末期看護見学実習（1 週間）:継続的な治療を要する慢性疾患を持つ対象者および緩和ケアを必要とする対象者への看護を、見学を通して学ぶ。

キーワード	到達目標
慢性期 セルフケア セルフケアマネジメント 患者教育 終末期 緩和ケア 外来透析療法 外来化学療法 退院調整	1. 健康障害を受け入れながら生活する、もしくは人生の終末期にあり、緩和ケアを必要とする対象者を全人的に理解することができる。 2. 慢性的な健康障害が生じているもしくは緩和ケアを必要とする対象者の身体変化を、症状、病態生理、検査結果と関連づけて述べることができる。 3. 対象者の全体像を把握し、看護上の問題点を抽出・看護計画立案・実施・評価することができる。 4. 対象の症状・苦痛緩和にむけた援助や、健康の維持増進、心身の安寧を目指した援助、退院後の生活を視野に入れたセルフケア獲得にむけた援助ができる。 5. チーム医療の実際を学び、チームメンバーの役割と連携について説明することができる。 6. 慢性期・終末期にある対象および緩和ケアを必要とする対象に対する医療体制がわかる。 7. 継続的な治療を要する慢性疾患をもつ対象者および緩和ケア・ターミナルケアを必要とする対象者の身体的・心理的特徴がわかる。 8. 継続的な治療を要する慢性疾患をもつ対象および緩和ケアを必要とする対象に対する看護の実際を体験し、対象者の特徴に応じた看護の特徴がわかる。 9. 慢性期・終末期にある対象および緩和ケアの場における看護に対する自己の考えをまとめることができる。 10. 学生として責任のある行動をとり、看護専門職として望ましい態度を身につけることができる。

授業の計画・形式

第１週	第１週 慢性期・終末期看護見学実習：継続的な治療を要する慢性疾患を持つ対象者への看護が提供されている場（外来透析室、外来化学療法室、退院調整室等）もしくは緩和ケア病棟での看護の実際を見学・体験する。 見学した内容から慢性期看護・終末期看護について考察し、カンファレンスにて共有する。 見学実習、カンファレンスを通して看護に対する自己の考えをまとめ、レポートする。
第２週	第２週 慢性期・終末期患者受け持ち看護実習：慢性期（終末期を含む）にある対象を受け持ち、指導者の指導の下、看護実践を行う。 看護援助を通して患者情報を収集、アセスメントし、現在考えられる看護上の問題を抽出する（看護過程展開）。臨地にて、把握した患者の全体像と看護問題を発表する。
第３週	第 3 週 慢性期・終末期患者受け持ち看護実習：受け持ち患者に対し、計画的に看護を実践する。第 2 週で抽出した受け持ち患者の看護上の問題に対し、患者目標を設定し、目標達成のための看護計画を立案する。看護計画に基づいた看護を実践し、評価する。評価に応じて計画修正を行う。(看護過程を展開)。 実習最終日に受け持ち患者に対する看護を振り返るためにサマリーを作成する。

教科書、参考書	
教科書	実習オリエンテーションにて提示する。
参考書	実習オリエンテーションにて提示する。

先修要件

2 年次までの学年進度とされているすべての必修科目の単位を修得し、「在宅看護援助論」、「医療安全」が修得見込みであること

成績評価

本試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・演習）	その他	合計
%	%	%	%	実習　100%	100%

担当教員からのメッセージ

実習は、自ら学習する姿勢が大切です。分らないことは自分で調べる、対象に必要な看護を考える、そして対象に必要な看護を実践することが重要です。
比較的経過が穏やかな時期である慢性期・終末期の患者を受け持ち実習します。経過が穏やかであっても治療を受けている対象の特徴をよく理解し、対象にあった看護実践を通して看護の楽しさを感じられるように頑張りましょう。